

これからのチアリーディングの在り方に関する一考察

A study on the ideal existence of cheerleading

1K08B185-1 堀切陽介

指導教員 主査 友添秀則 先生 副査 杉山千鶴 先生

【動機・目的】

筆者は大学入学後にチアリーディングという競技に出会った。筆者自身が入っているチアリーディングチームは、男子だけのメンバーで構成された珍しいものである。男性のチアリーダーは力やバネを生かして女性のチアリーダーよりもキレのある演技や、女性には出来ない演技が出来る魅力があるが、現在男性競技者はとても少ない。チアリーディングの本場アメリカでは、男性のパワーや難度の高いアクロバットと、女性のしなやかさや華やかさをそれぞれ生かした男女混成チームも少なくないが、日本においてはほとんどないのが現状である。男性を増やすという課題以前に、チアリーディングというスポーツそのものが一般的でない事が関係しているのではないかと考えた。そこで本研究では、チアリーディングの史的変遷や現状を明らかにし、今後の在り方について検討することを目的とする。

【研究の方法】

本研究は、チアリーディングに関連する文献やインターネットの情報を元にする他、現状を具体的かつ掘り下げて知るために、社団法人日本チアリーディング協会の指導者資格を有する方や、元日本代表選手へのインタビューも参考とした。

【第1章】

第1章ではチアリーディングと混同されやすいソングリーディング(チアダンス)や、その他バトントワリングなど関連する競技との関係性について明らかにした。また、チアリーディングにおけるポジションや技術用語が一般的で無いことから、代表的な技術用語について写真を加えて説明を行った。

【第2章】

第2章ではチアリーディングの史的変遷について日本とアメリカに分けて説明を行った。アメリカにおいては、アメリカンフットボールの応援からチアリーディングが誕生し、そしてもともと男性によって始まったスポーツである事が分かった。その後、戦後に女性がスポーツに進出した事でチアリーディングも女性

が多くなった。大会運営を行う協会や団体が増え、UCA と AACCA によって安全マニュアルが作成された。日本では、もともとUCAからチアリーディングを輸入し、その後現在の日本チアリーディング協会が設立されたこと、日本がアジアへチアリーディングを普及させた経緯について明らかにした。

【第3章】

第1節では現在の日本のチアリーディングにおける諸問題について考察を行った。JAPAN CUP のパンフレットから男性競技者の数を調べたところ、男性競技者は約2%しかいない事が明らかになった。しかし、その男性競技者が活躍していることを BRAVES、SHOCKERS、COOKIES、PEEWEEES! といったチームを事例に挙げ、説明した。

第2節では日本においてチアリーディングの協会や団体を列挙し、それらの現状、今後の在り方について提案を行った。

第3節ではIFC、ICU 主催の2つの世界大会について日本の成績の現状を調べた。その結果、IFCの世界大会では日本は男女混成部門、女子部門ともに優勝を繰り返しているが、ICUの世界大会で優勝を繰り返しているアメリカが参加していないこと、ICUの世界大会では日本は入賞ができていない現状であることを明らかにし、今後のシステム構築の必要性について述べた。

第4節では採点方式に表現力やSHOWMANSHIP といった一般人には審査が難しい内容が含まれているため、減点箇所などを明らかにするシステムの必要性、またその際に審判員を守るシステムの必要性について述べた。

第5節ではチアリーディングとメディアの関連性について、テレビとインターネットを事例に説明した。アメリカにおいて各チアリーディング協会、団体の映像を配信するサイト Varsity があるが、日本には現状そういったサイトがないため、今後そのようなサイトの運営を行うような団体の必要性について述べた。

【結章】 結章では第1章から第3章までのまとめを行い、今後の課題を提示した。

